

2022年

9月30日(金)ー10月10日(月・祝)

18時30分ー21時 会期中無休・天候により中止の日有り

大洲大作 Logistics/Rotations

会場⇨JR・東急蒲田駅東口周辺 裏面地図参照

蒲田駅東口下車徒歩約3分(JR京浜東北線/東急多摩川線・池上線)

京急蒲田駅西口下車徒歩約7分(京急急行線)

観覧無料 お問い合わせ=Tel.03-3750-1611

<https://www.wota-bunka.or.jp/>

主催⇨公益財団法人大田区文化振興協会、大田区 特別協力⇨市川平 機材協力⇨キヤノン株式会社 会場協力⇨NIT東日本、株式会社チッタメント、明治安田生命保険相互会社、明治安田ビルマネジメント株式会社、株式会社レックス、月村敏江
撮影 取材協力⇨株式会社アトカタ、蒲田東口商店街商業協同組合、有限会社関鉄工所、S・K・I・P・シヤ、彩の国ビジュアルプラザ、田宮惟吉
映像資料提供⇨米国立公文書館 広報協力⇨京浜急行電鉄株式会社、東急電鉄株式会社(個人名を全て敬称略)



大田区文化振興協会

アート・プロジェクト
〈マチニエラカク〉

大洲大作 Logistics / Rotations

蒲田から羽田へ、海の向こうへと続いた羽田航空基地側線。
今ふたたび、果てなき廻転を街に描き出す試み。 — 大洲大作

本作は、写真を軸に人の営みを光と影で捉えなおす行為を続ける美術家、大洲大作が蒲田の街に映像を仕掛ける、新作のインスタレーションです。2019年「未完の螺旋」、2022年「Loop Line」に連なる作品であり、史実に残る引き込み線の記録を基に制作されています。

舞台は、終戦後の蒲田(大田区)であり、かつてその街を走っていた線路の道筋です。昭和初期に町工場とその働き手の倍増により地域経済を大きく発展させた蒲田は、戦時下の空襲で、約8割が焼け野原となり、終戦を迎えます。昭和21年3月、現在の蒲田駅東口周辺に、羽田飛行場拡張建設工事用資材などの輸送ルートとして省線(現:JR)蒲田駅から京浜(現:京急)蒲田駅を通る貨物線敷設工事が進められました。翌年に完成した線路上を、多い日は一日に175両もの車両が蒲田の街を走り、厚木米軍砂利採石場などから羽田航空基地まで、資材をはじめ物資や兵員を運び続けたといわれています。ふたつの蒲田駅を結んで続くその痕跡を、線路を去来したものの／ひとの記憶に辿る本作。ぜひ、高覧ください。

なお、本展は大田区さまざまな文化資源とともにアートを創り、地域の活性化を目的としたOTAアートプロジェクトの二環です。現代アート部門《マチエラカク》では、大田区の街なかにアートを仕掛けることで、新たな風景の創出を試みています。

作家プロフィール

大洲大作 OZU Daisaku

美術家。写真を軸に、人の営みを光と影で捉えなおす行為を続けている。列車などの車窓にうつり、滲む、営為をうつす光そして影を掬い上げる《光のシークエンス》、果てなく廻り続ける環状線に現在をまつ《Loop Line》などを制作。近年の主な制作に、「六甲ミーツ・アート 芸術散歩2022」(六甲山芸術センター、兵庫、2022) / 開催中、「大洲大作 Loop Line」(citociko、東京、2022) / 個展、「大洲大作 未完の螺旋」(京成

電鉄) 旧・博物館動物園駅、東京、2019 / 個展、「めがねと旅する美術展」(青森県立美術館 / 島根県立石見美術館 / 静岡県立美術館、青森 / 島根 / 静岡、2018)、「あいちトリエンナーレ」アートラボあいち、sic&art 02窓から、「アトラボあいち、愛知、2018」、「写真+列車」映画 市川平 大洲大作 瀬尾俊三(カメラマン) 東京、2017)、「始発電車を待ちながら」(東京ステーションギャラリー、東京、2017)などがある。



Loop Line(2022)



L/O(2020)



未完の螺旋(2019)

関連イベント(事前予約制)

- アーティストトーク 10月1日[土]19時-20時
- 出演:大洲大作(美術家)、伊藤隆介(実験映像作家、美術家)
- 定員:50名 / 参加費無料 ●参加方法:9月1日[木]10時から15日[木]23時59分に専用応募フォームからお申込みください。
- 会場:第二美須ビル4階会議室(大田区蒲田5-20-10)

《聞き手》伊藤隆介 Ito Ryo-kei

実験映像作家・美術家、東京造形大学で映像作家かわなかのぶひろ氏に師事「The School of The Art Institute of Chicago」(カネ美術館附属大学 大学院修了)。映像メディアの物質的な特性をテーマに、映画フィルムを廃材(実材)としてコラージュする実験映画、「ミニチュアセット、日常製品などと映像を組み合わせたインスタレーション」などを制作している。近年の個展に「Domestic Affairs」(児玉画廊、天王洲、2020年)など。1980年代から「村雨ケンジ」名義で、マンガ批評やサブカルチャーについての評論も数多く執筆している。2012年より北海道教育大学教授。



●ガイドツアー

10月2日[日]、10日[月・祝]19時から

◎定員:20名 / 参加費無料

◎対象者:小学生以上ならどなたでも

◎参加方法:9月1日[木]10時から15日[木]23時59分に専用応募フォーム

からお申込みください。

◎会期:9月30日[金]-10月10日[月・祝]

18時30分-21時 会期中無休

天候により中止の日有り 観覧無料

※天候不良等で中止の日は、Twitter (@ota-bunko) でお知らせします。

◎会場:JR 東急 蒲田駅東口周辺 地図参照

(JR 京浜東北線 / 東急多摩川

線池上線、京急蒲田駅西口下

車徒歩約7分(京急急行線)

詳細はこちら

https://www.ota-bunko.jp/

お問い合わせ:Tel.03-5750-1611

